

平成 27 年（2015 年）6 月 24 日

## 私の市政への思い （ 全 文 ）

札幌市長 **秋元克広**

明治 2 年に開拓使が設置され、北海道開拓の中心に位置付けられて以降、北海道と共に発展し、今や 194 万人もの人口を擁する大都市へと成長を遂げてきた私たちの街・札幌も、今、大きな転換期を迎えている。

長きにわたり低迷してきた日本経済は、このところ雇用者数が増加傾向にあり、完全失業率が引き続き低下しているなど、雇用情勢が改善の方向に向かっているほか、個人消費についても持ち直しの兆しがみられるなど、緩やかな回復基調が続いている。

また、日本を訪れる外国人は、主にアジアからの旅行者が増えたことに伴い、この 2 年間で約 500 万人増加し、昨年は 1,300 万人を超えて過去最高を記録したところであり、北海道を訪れる外国人についても、平成 25 年度には初めて 100 万人を超えるなど、国内の観光が活況を呈している。

そのような中、札幌市も含め我が国全体が、人口減少、高齢化といった人口問題の大きな曲がり角の真ただ中におかれている。

我が国では、2008 年に始まった人口減少が、今後加速度的に進むとされており、2008 年には約 1 億 2,800 万人だった人口は、2060 年には約 8,700 万人まで減少すると推計され、同時に高齢化率は、将来的に 40% まで上昇すると言われている。

札幌市について言えば、ここ数年のうちに人口減少局面に転じると推計しており、このままでは 2060 年には約 143 万人まで人口減少が進み、高齢化率も 44% まで上昇する見込みとなっている。

加えて、1972 年に政令指定都市となり、アジアで初となる冬季オリンピック札幌大会の開催を経て、世界都市の一つに数えられるまでに発展してきた我が街・札幌。その開催を契機に整備が進められた、地下鉄や道路などの都市基盤や学校などの公共施設が、今後一斉に大量更新の時期を迎える。

このような厳しい時代にあって、人々が安心して暮らしていくために、私たちがまず取

り組まなければならないのは、働く場の確保である。特に、若い世代が地元で就職し、結婚し、安心して子どもを産み、育てていけるようにすることが、何より大切であると考え

る。

また、あらゆる世代において、誰もが健康で安心して暮らせる街であることは、人が生活する上で最も基本となることである。加えて、高齢者が、豊富な経験や知識を生かしながら、生涯現役として社会に貢献できるような街にしていくことが必要である。

札幌はハード・ソフトの両面で、街を創り変えていくべき時期に来ている。

札幌の街は今、かつて誰も経験したことのない人口減少・超高齢社会の到来を目前に控え、北海道開拓使設置、そして冬季オリンピック札幌大会開催に次ぐ、三度目とも言うべき大きな転換期を迎えているが、私はこれを、より札幌の魅力を高めていくチャンスと捉える。

今こそ、市民、企業、行政が力を合わせ、様々な課題に取り組むとともに、国内外からもっともっと、人、モノ、情報などを引き付け、都市の魅力を更に高め、それがまた、人、モノ、情報などを引き付けるという好循環を形成していかなければならない。

さらに、北海道と共に発展してきた札幌は、この難局を乗り切っていくために、北海道そして178の道内市町村としっかりと手を携え、北海道の中心都市として、役割を果たしていかなければならない。その使命と責任を背負い、私は今ここに立っている。

これからの4年間は1日でも1時間でも無駄にはできない。

多くの人々を魅了し、誰もがいつまでも住み続けたいと思う街を築き上げ、将来の世代に引き継いでいくために、私は、これまで培った力を発揮し、決断力とリーダーシップをもって、以下に示すまちづくりに取り組んでいく。

## 1 私が描く未来のさっぽろ

人を大事にするということを原点に据え、地域の実状をしっかりと見つめ、市民、企業、行政が知恵を出し合い、地域課題の解決に全力で取り組む「徹底した地域主義」でまちづくりを進め、2つの、心豊かで明るい札幌の未来を描く。

### (1) 「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」さっぽろ

これからの人口減少・超高齢社会を見据え、誰もが安心して暮らし、人とつなが

り、生涯現役として必要とされ、札幌の市民であることに誇りを持ちながら、生き生きと輝ける街。そんな街・札幌を目指す。

## (2) 「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」さっぽろ

時代の変化を的確に捉え、新しい試みに大胆かつ果敢に挑戦し、国内外から人、モノ、情報などを引き付け、世界都市としての魅力と活力を創造し続け、北海道をリードしていく街。そんな街・札幌を目指す。

誰もが生涯現役として輝き続ける街であることが、都市の魅力と活力を創造する源泉となり、また、都市の魅力と活力を創造することが、働く場の確保や税収増となって、人々の暮らしの充実につながる。このように、相互に関係し合い、高め合う、2つの未来の札幌の姿を実現していく。

## 2 私に取り組むまちづくりの4つの挑戦

### (1) 「雇用を生み出す力強い街」さっぽろをつくる

札幌の未来を担う若い世代が地元で生活していくためには、安心して働いていける雇用の場が必要である。

そこで、札幌の経済の屋台骨を支えている地域の中小企業のチャレンジを応援するとともに、地元企業の受注拡大に努め、入札・契約制度の改善を図るなど、地域経済を元気にする振興策を積極的に展開する。

また、札幌の持つ都市機能などを強みに、特に自然災害の発生率が低い街であることなどを前面に押し出して、首都圏本社機能の移転や海外企業の誘致などを進めるほか、次世代を見据えた産業育成に取り組む。加えて、将来的に需要の増加が見込まれる産業分野の人材育成にも取り組み、雇用機会を広げていく。

さらには、道内の経済循環を意識しながら、札幌を含めた北海道経済の成長をけん引する「食」と「観光」をこれからの成長分野として位置付け、特に、様々な業種にその効果が波及する裾野の広い「観光」に力を注ぎ、MICEの誘致強化や、MICE施設の充実に取り組むほか、「さっぽろ雪まつり」や「さっぽろオータムフェス

ト」をレベルアップし、来場者数増を図るなどして市内経済を更に活性化させる。また、夜間観光の魅力づくりを進めて、滞在型観光を振興する。

このほか、国内外及び市内のアクセス向上に向け、北海道新幹線を始め、創成川通の交通を円滑にする都心アクセス道路など、交通網の充実・整備に努めるとともに、丘珠空港の利用促進に取り組む。

加えて、経済循環・物流循環の活発化に向けて、大谷地流通業務団地の物流機能を高度化・効率化させる取組を検討する。

## (2) 「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」さっぽろをつくる

女性の割合が高い街・札幌が一層発展していくためには、女性がその持てる能力を存分に発揮できる環境を、更に整えていくことが重要である。また、子どもたちの中にある「生きる力」を育み、大きく伸ばすことで、世界の舞台で活躍する「さっぽろっ子」となっていくことを期待している。

そこで、企業におけるワーク・ライフ・バランスの取組を促進するほか、保育所整備や幼稚園の認定こども園化などの待機児童ゼロ対策とともに、児童の放課後の居場所づくりなどの子育て支援策を実施することで、出産・育児の際に雇用がきちんと守られる環境を整え、社会全体で子育てを支える仕組みづくりを進める。

また、妊婦健診や乳児全戸訪問、周産期医療など、産前・産後ケアの充実を図るほか、DV被害者への支援体制の充実などDV対策を強化する。

さらには、小学校における英語教育の充実や、小中一貫校の設置検討、中学校の部活動支援を行うなど、学問、スポーツなどあらゆる分野で、子どもたちが自らの可能性に気付く機会や、成長していくための場を増やす。

加えて、障がいの有無にかかわらず、共に学べる機会を増やす取組を進めるなど、子どもが安心して暮らせる環境づくりを進めるほか、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することがないよう、子どもの貧困対策を進める。

このほか、未来を担う子どもたちに夢と希望を与える冬季オリンピック・パラリンピックの招致に取り組み、併せて、平和と共生社会の実現というオリンピック精神の教育を進める。

### (3) 「いつまでも安心して暮らせる街」さっぽろをつくる

超高齢社会の中で、いつまでも安心して暮らせるようにするためには、年齢、性別、障がいの有無などの違いがあっても、それぞれが自立し、お互いを尊重し合いながら社会に参加できる街であることが必要である。

そこで、子どもから高齢者まで、地域に住む人みんなが福祉のまちづくりの担い手となる仕組みを整え、やりがい・生きがいを創出するとともに、互いに支え合う地域福祉力の向上を図る。

また、特別養護老人ホームやグループホームなどの定員を大幅に増加させるなど、ライフステージや身体状況に応じた住まいの確保に取り組み、健康で生き生きと暮らしていくために必要な行政サービスを、しっかりと提供していく。併せて、間もなく到来する超高齢社会も見据え、関係機関の連携体制の整備を進め、地域包括ケアシステムの構築など、医療・看護・介護・福祉の一貫した連携による生活支援サービスを始めとして、多様なサービスを展開する。

同時に、高齢者が受診しやすい体制を確立することで健診受診率の向上を図るなど、健康寿命の延伸に向けて予防医療の推進に取り組むほか、区役所等に就業相談の総合窓口を設置するなどして高齢者の活躍を促進する。

さらには、公的施設などのバリアフリーや移送サービスを充実させることで、高齢者や障がい者の社会参加の促進に取り組むほか、孤立世帯の発生を未然に防止するために、民間事業者と連携して、きめ細かい見守り・安否確認体制を作るなど、地域の安心ネットワークを構築する。

### (4) 「魅力と活力にあふれた暮らしやすい街」さっぽろをつくる

世界都市として、今後も国内外から多くの人々や企業を引き付けるためには、経済・文化・芸術・スポーツなど、幅広い分野で様々な交流や活動が活発に展開されている、私たちの街・札幌の魅力、求心力を維持し、一層高めていくことが重要である。

そこで、民間投資を呼び込む再開発事業の促進等により、世界都市・道都としての都市整備を進めていく。

また、「環境首都・さっぽろ」として、自然と共生する快適な都市生活の実現に向け、再生可能エネルギーの積極的活用、効率的なエネルギーネットワークの構築、「循環型社会」への取組、自然環境や生物多様性を守る取組を継続・推進し、「原発

に依存しない社会」を目指す。

さらには、積雪寒冷地ならではの課題である除排雪のレベルアップを図るほか、各地区の拠点に、商業施設や公共施設、医療・福祉施設などを集積するとともに、小学校を地域コミュニティの拠点として、多世代交流の場を創出し、誰もが地域で快適な日常生活を営むことのできる「歩いて暮らせるまちづくり」を進める。

同時に、防災・減災の観点から道路の空洞化などを点検し、橋りょうや建築物の耐震化を加速するとともに、災害に備えて要援護者対策を強化するなど、ハード・ソフトの両面で災害に強い都市づくりを進めるほか、生活環境の安全確保に努める。

このほか、町内会やPTAなど地域の様々な団体の活動を支援することなどにより、地域コミュニティの再生と活性化に取り組むとともに、アイヌ文化に対する市民理解の一層の促進や、国際平和貢献に取り組む。

加えて、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟の意義を継承しながら、まちづくりを進める。

以上の4つの挑戦を織り込みながら、人口を安定させ、将来にわたり札幌らしい活力ある地域社会を形成するために、地方人口ビジョン・地方版総合戦略を策定し、人口減少対策を推進していく。

### 3 私が目指す市政運営～「市民とともに不断の改革を進める街」さっぽろをつくる～

#### (1) 市民力の結集

人口減少というこれまで経験したことのない時代の転換点を迎え、今後、「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」と「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」を実現していくに当たっては、行政の力のみならず、市民や企業の力が必要不可欠となる。

この厳しい局面を乗り越え、新しい時代を切り開き、先人達が築き上げてきた、私たちが愛してやまないふるさと・札幌を将来の世代に引き継いでいくために、市民、企業、行政の総力「市民力」を結集し、オール札幌で取り組んでいく。

## (2) 市民感覚の行政運営

市民満足度の高いサービスを提供し続けるためには、今、市民が何を求めているのか、そのニーズを的確に捉えることが重要である。

そこで、役所の理屈によって、役所に都合の良い行政運営を進めることなく、市民の声や民間のノウハウを市政に取り入れる取組を積極的に実施するなどして、常に私や職員一人一人が自らの中に持っている「市民感覚」を大切にし、市民の立場に立った行政運営を進めていく。

その際には、事業や事務の効率化を図り、人材や財源など、限りある経営資源を有効活用するとともに、市民サービスの担い手である職員が、より一層力を発揮するための取組を行い、市民サービスの質向上を進めていく。

## (3) 財政バランスの重視

限られた財源の中で、選択と集中により、最小の経費で最大の効果を挙げられるよう、メリハリの効いた財政運営を行うことを基本とする。

そして、将来世代に過大な負担を残さぬよう財政規律を堅持しつつ、今後の公共施設の大量更新に当たっては、利用者の世代間負担の公平性を確保するため市債を活用するとともに、民間投資の誘発や地域経済の活性化により税収増につながる政策に対しては、未来への投資として財政出動を行う。

## (4) 道内市町村との連携

札幌の魅力は、豊かな自然や食などの北海道の魅力に支えられているものであり、正に北海道の発展なくして札幌の発展はないと言える。

これまで以上に道内178市町村と相互に補完し合う関係を築くとともに、北海道のために札幌があるという意識を忘れずに、北海道との連携を強めながら、道都として北海道活性化の推進エンジンの役割を果たしていく。

以上の施政方針を実行するに当たり、札幌市のまちづくりの中長期的な指針「札幌市まちづくり戦略ビジョン」に基づき、まちづくりと行財政改革の具体的取組を盛り込んだ中期実施計画を策定する。

この中期実施計画を着実に実行することで、これからの困難な時代にあっても、明るい未来の札幌を描き、人々を魅了し、誰もがいつまでも住み続けたいと思う街を築き上げ、将来の世代に引き継いでいく。